本書は、旧製品の取扱説明書を電子化したものです。
一部見えにくい箇所がございます。

記載されている内容はすべて販売当時のものです。
仕様や価格などは、その後予告なしに変更されることがあります。
あらかじめご了承ください。



製品仕様

水晶発振周波数：32,768Hz
常温携帯精度：平均月差±10秒以内
表示方式：FE型液晶デジタル表示
表示内容：通常表示＝時・分・秒（10秒・秒）・午前／午後
切替表示＝月・日・曜日　2月28日制オートカレンダー
ストップウオッチ表示
(13分まで計測可能「時・分計」として13時間まで利用可能)
デュアルタイム(別時計)表示
セット機構：時刻セット機構　　ストップウオッチセット機構
カレンダーセット機構　デュアルタイム(別時計)セット機構
秒合わせ機構(±30秒クリア)
時差修正機構
主要回路素子：音叉型高性能水晶振動子　ワンチップC/MOS-LSI
使用電池及び寿命：酸化銀電池（No.391）1個、電池別途販売
約12ヵ月(1日当り、ライトを5秒間点灯した場合)

ご使用上の注意

温度　直射日光が長くあたったり、高温になる所に放置しないでください。また、寒い所に長く放置しないでください。

●遅れ・進みが生じたり、止まったり、電池寿命が短くなることがあります。
また、＋60℃以上の所に長時間放置すると液晶パネルに支障をきたすことがありますのでご注意ください。

防水性　洗顔や雨など日常の使用に耐える構造になっていますが、水泳、入浴、洗車時などでのご使用はお避けください。

●防水性能を保つために定期的(2～3年を目安に)なパッキン交換をおすすめします。

ショック　通常の使用状態でのショックや軽い運動(キャッチボール、テニスなど)には十分耐えますが落としたり、強くぶつけると故障の原因になります。

磁気　磁気の影響はありません。

お手入れ　ケースやバンドの汚れ、汗、水分などは吸湿性のよい柔らかい布でふき取り、常に清潔にしてご使用ください。金属バンドについては時々、柔らかい歯ブラシなどによって、石けん水でスキ間にたまった汚れを部分洗いすることをおすすめします。

●汚れたままですとサビたり、衣類の袖口を汚したり、皮ふの弱い方はかぶれたりする場合があります。

薬品類　水銀や化学薬品（シンナー、ガソリン、各種溶剤、またはそれらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類）が付着するとケース、バンドなどに変色や破損を生ずる場合がありますのでご注意ください。

保管　長期間ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などをふき取り、高温、多湿の場所をさけて保管してください。

電池交換について

最初の電池　工場出荷時にモニター用電池が組み込まれておりますので、記載された電池寿命に満たないうちに切れることがあります。

消耗　電池が消耗しますと「時刻の狂いが目立ったり」「見にくくなったり」「表示が消えたり」します。

●消耗した電池を使っていると故障の原因になりますので、お早めに交換してください。

電池交換　電池交換は必らずお買上げ店または最寄りのカシオサービスセンターにお申しつけください。

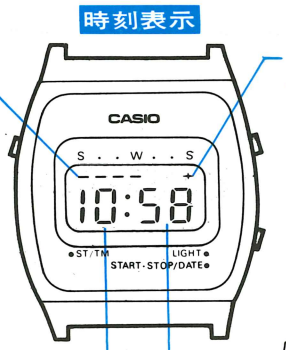
●電池は必らず当社指定の専用電池と交換してください。指定以外の電池を使用しますと故障の原因となる場合があります。

液晶パネルの交換について

液晶パネルは約7年を過ぎますと数字や文字が読みにくくなる場合があります。その時はお買上げ店または最寄りのカシオサービスセンターに交換をお申しつけください。実費にて申し受けます。

時計のお取扱いで、万一、誤ったボタン操作を行なっても、製品に障害を与えることは一切ありません。
この時計の特長、機能を十分使いこなしていただくためにも、ご納得のゆくまでお試しください。

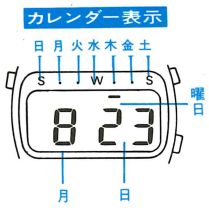
表示の見方と操作のしくみ



Ⓛライトボタン

Ⓑボタン
押すごとに、「時刻表示」←→「ストップウオッチあるいはデュアルタイム」と切替わります。

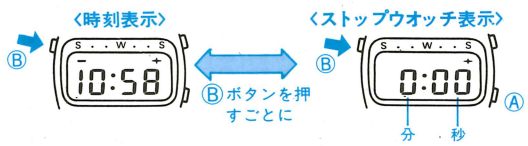
Ⓐボタン
押している間、カレンダー表示になります。



ストップウオッチの使い方

●ストップウオッチ表示にするには

時刻表示のときⒷボタンを押します。以後、Ⓑボタンを押すごとに時刻表示←→ストップウオッチ表示と切替わります。



表示が0:00にならないときはⒶボタンを0:00になるまで押しつづけます。

●スタート/ストップ、リセット(0:00)のしかた

〈スタート〉Ⓐボタンを押す
(＋が点滅してカウント開始)

〈ストップ〉Ⓐボタンを押す
(＋が点灯してカウント停止)



〈リセット〉Ⓐボタンを表示が0:00になるまで押しつづける
カウントはつづきますが2秒後ぐらいに0:00になります

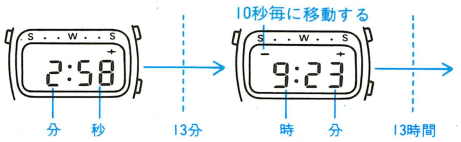
※ロスタイムがある場合
リセットせずに再スタート(Ⓐボタンを押す)すれば表示タイムに引きつづきカウントをはじめます。

●ストップウオッチ使用中に時刻を見たい場合

カウント中でも、停止中でも、Ⓑボタンを押せば時刻表示に戻ります。この間ストップウオッチは正常に働いています。

●計時可能時間と表示の変化

ストップウオッチは、13分まで「分・秒計時」それ以降は13時間まで「時・分計時」になります。



13時間をこえると再度0:00より自動スタート

デュアルタイムの使い方

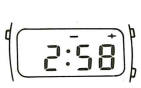
デュアルタイム機能とは、 現在時刻の他に海外時刻などもう1つの時刻をセットできる機能です。1度セットすれば、Ⓑボタンを押すごとに時刻表示↔デュアルタイム表示と切替わりますので、常時その時刻を知ることができます。



※表示の見分け方
10秒表示が連続して表示される。
→時刻表示
10秒表示が単独で表示される。
→デュアルタイム表示

●デュアルタイムに海外時刻などをセットするには

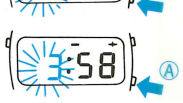
(1) 時刻表示のとき、Ⓑボタンを押すとデュアルタイム表示あるいはストップウオッチ表示になります。



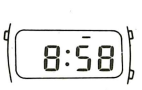
(2) このとき、Ⓐボタンを押したままⒷボタンを押すと「時」が点滅します。



(3) Ⓐボタンを押すごとに「時」が進みますので合わせたい「時」にセットします。
※午後表示＋は「12」をすぎると灯いたり消えたりします。



(4) Ⓑボタンを押すと点滅が止まりセットは完了です。 ※時刻表示の「分」「秒」が自動セットされます。
※このあと、もう1度、Ⓑボタンを押すと時刻表示に戻ります。



30分の時差のある地域(シンガポール・インドなど)の時刻セットのしかた
(3)の操作のあと、Ⓛボタンを押すと「分」が点滅しますのでⒶボタンで合わせたい「分」にセットし、(4)の操作に進みます。

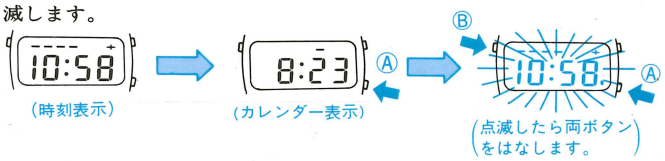
ストップウオッチ機能とデュアルタイム機能はどちらか1つを選んでお使いください。例えば、デュアルタイム機能を使用中にストップウオッチ機能にすると、デュアルタイムの時刻は解除されます。

時刻・カレンダーの合わせ方

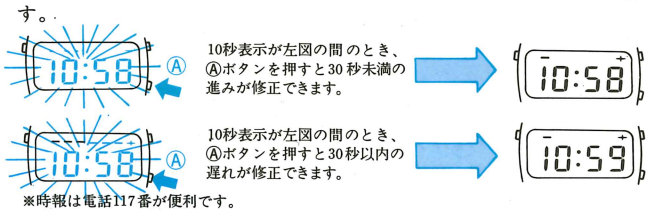
A「秒」の合わせ方

30秒以内の遅れ進みは以下のように簡単に修正できます。月に一度ぐらいこの「秒合わせ」をしていただくと時計はいつも正確です。

(1) 時刻表示のとき、Ⓐボタンを押したままⒷボタンを押すと表示全体が点滅します。



(2) 時報の「ポーン」に合わせてⒶボタンを押すと下図のようにピタリ合います。



※時報は電話117番が便利です。

B「時」「分」「月」「日」「曜日」の合わせ方

電池交換後など、時刻・カレンダーを新たにセットしなおすときは、**まず、Aの「秒の合わせ方」で「秒」を合わせたのち、**以下の順序でセットしてください。

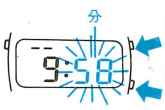
(1) 時刻表示のときⒶボタンを押したままⒷボタンを押します。表示全体が点滅します。



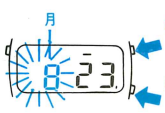
「時」のセット
(2) Ⓛボタンを押すと「時」が点滅します。Ⓐボタンを押すごとに「時」が進みますので、合わせたい「時」にセットします。
※午後表示＋は「12」をすぎるごとに灯いたり、消えたりしますので、午前/午後の指定をまちがえないようご注意ください。



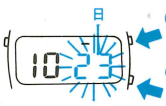
「分」のセット
(3) 「時」のセットのあとⓁボタンを押すと「分」が点滅しますので、Ⓐボタンで合わせたい「分」にセットします。



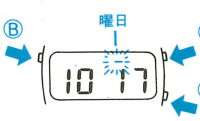
「月」のセット
(4) 「分」のセットのあとⓁボタンを押すと「月」が点滅しますので、Ⓐボタンで合わせたい「月」にセットします。



「日」のセット
(5) 「月」のセットのあとⓁボタンを押すと「日」が点滅しますので、Ⓐボタンで合わせたい「日」にセットします。



「曜日」のセット
(6) 「日」のセットのあとⓁボタンを押すと「曜日」が点滅しますので、Ⓐボタンで合わせたい「曜日」にセットします。そのあとⒷボタンを押すと点滅は止まり、時刻表示に戻ります。



時刻・カレンダー合わせのしくみ

●Ⓐボタンを押したままⒷボタンを押し、表示全体を点滅(「秒合わせ」の状態)させたあと、Ⓛボタンを押すごとに以下の順で点滅する個所が移動します。

時 → 分 → 月 → 日 → 曜日

●どの個所も単独に修正できますので、Ⓛボタンで修正したい個所を選び、Ⓐボタンでセットします。

●セットが終われば、どの個所からでもⒷボタンを押すと時刻表示に戻ります。

※修正中も時刻は正確にカウントを続けています。

こんなときには

●操作ミスなどで時刻表示以外の表示になり、どうしてももとに戻らないとき。 ⇨ 以下の方法で時刻表示に戻します。

●セット中に、どの操作まで行ったかわからなくなったとき。 ⇨ 以下の方法で時刻表示に戻し、初めからセットし直します。

〈時刻表示への戻し方〉
1.Ⓑボタンを押します。
2.Ⓐボタンを押している間、カレンダー表示になれば時刻表示に戻っています。もし、ならないときは、1.の操作をくり返します。

